

2. 品質への取り組み

◆ 品質基本方針

三ツ星ベルトグループでは、「経営基本方針」を「品質基本方針」と定め、その「行動基準」に基づき、顧客に提供する製品・サービスの質向上を図るための品質保証体制を整備し、活動しています。

品質基本方針

「高機能、高精密、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」

行動基準

- ① 顧客の満足を得る製品を開発する。
- ② 全社的品質管理(TQM: Total Quality Management)を充実・レベルアップし、国内外業界のトップレベルの品質を確保する。
- ③ 決めた標準を守って仕事を行う。

◆ 品質マネジメントシステム取得による品質保証への対応

品質マネジメントシステムについては、自動車用関連部品で世界トップレベルの品質システム向上を図るため、国内外の工場で、自動車業界の国際品質規格IATF16949の認証を取得するとともに、各種製品でISO9001の認証を取得し、品質保証体制の強化を図っています。

IATF16949・ISO9001・JIS A 6008 認証取得

規格種類	対 象	
IATF16949	産業資材事業部門(四国工場)	自動車用ベルト
	三ツ星ベルト技研㈱	自動車用ベルト
	MBL (USA) CORPORATION	自動車用ベルト
	STARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITED	自動車用ベルト
	MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED	自動車用ベルト
	PT. SEIWA INDONESIA	自動車用ベルト
	蘇州三之星機帯科技有限公司	自動車用ベルト
	MITSUBOSHI BELTING-INDIA PRIVATE LIMITED	自動車用ベルト
ISO9001	産業資材事業部門(神戸本社、東京本社、名古屋工場、四国工場) 三ツ星ベルト技研㈱ 三ツ星ベルト工機㈱	一般産業用ベルト、ウォームホイールブランク、エンジニアリングプラスチック、Vリブプーリ、ベルトテンショナー
	建設資材事業部(神戸本社、東京本社、名古屋工場)	建築用防水シート、土木用遮水シート
	製品開発部	金属ペースト、回路基板材料および塗料
	三ツ星ベルト工機㈱	タイミングプーリ
	三ツ星ベルトコンベヤ㈱	搬送用樹脂ベルト
	MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED	一般産業用ベルト
	PT. MITSUBOSHI BELTING INDONESIA	一般産業用ベルト、カップリングゴム弾性体
	PT. SEIWA INDONESIA	一般産業用ベルト
	STARS TECHNOLOGIES INDUSTRIAL LIMITED	一般産業用ベルト
蘇州三之星機帯科技有限公司	一般産業用ベルト	
JIS A 6008	建設資材事業部(名古屋工場)	合成高分子ルーフィングシート

◆ 従業員の品質意識向上 –QC (品質管理) サークル活動–

三ツ星ベルトグループでは、「品質基本方針」に基づき、全社品質管理(TQM: Total Quality Management)を推進しています。その一環として、1967年からQC (品質管理) サークル活動に取り組んでいますが、近年は国内工場に留まらず、海外にも広がり、グローバルな人材育成・改善活動の場として定着しています。2020年からは新型コロナウイルス感染予防の観点より実施できていませんが、毎年秋には「三ツ星ベルトグローバルQCサークル大会」を開催し、現場における製品の品質管理や作業効率の改善などの事例を発表し合い、相互研鑽を図っています。また、一般財団法人 日本科学技術連盟主催のQCサークル全国大会に選抜サークルが発表するなど、社外のQCサークル発表会にも積極的に参加し、レベル向上を図っています。



2019年度三ツ星ベルトグローバルQCサークル大会 (インドネシア)



三ツ星ベルトグループの各拠点から選抜されたサークルが、2019年度はインドネシアに集結し、三ツ星ベルトグローバルQCサークル大会が行われました。参加者は一同、同じ衣装をまとって大会に参加し、一体感のある大会となりました。また、各拠点の活動内容を共有するなどの交流が生まれ、有意義な場となりました。



2021年度QCサークル全社大会 (神戸)



国内では年に2回QCサークル全社大会を開催しております。

2021年度は、各拠点の参加者は初のオンライン形式を試みるなど、新型コロナウイルス感染予防対策を十分行い開催しました。

オンラインの発表会とすることにより、各拠点で様々な人が聴講できる良い機会となりました。

GLOBAL GEMBA KAIZEN ACTIVITY



国内外の各拠点の若手スタッフが中心となって、工場における生産性や歩留まりの向上、不良低減などの原価低減テーマを計画的に進めながら、人材の育成を図る取り組みを実施しています。

テーマの選定は、各拠点より1件以上とし、国内工場スタッフと海外工場スタッフが連携し、各テーマを解決していきます。先輩スタッフを交えた定期的な進捗報告会や、年1回の海外工場での活動成果発表会等を通して、改善活動のレベルアップを図っています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、海外工場での活動成果発表会は中止となりましたが、社内通信環境を更に充実させ、リモート会議等を活用して活発なコミュニケーションが図れた結果、活動テーマ件数は前年度比113% (2019年度 15件 → 2020年度 17件) で、原価低減効果を更に積み上げています。

